

'98 木 製 サ ッ シ フ ォ ー ラ ム

フェンスターターク イン 北海道

最近、住宅需要の低迷に伴い、木材需要がかなり落ち込んでいます。これは、木製サッシも例外ではありません。かつてのバブル期には、リゾートホテルなどの施設が次々と建てられ、そこには少し値段は高いのですが、自然と調和した木製サッシが取り付けられていました。しかし、バブルの崩壊とともに、これらの施設の建設は少なくなり、木製サッシの需要も低迷を続けています。一方、人々の木製サッシへの思いは以前に比べてはるかに大きくなっており、できるならば木製サッシを使ってみたいと考えている人はかなりいるようです。これらの潜在的な需要をいかに掘り起こすかが、これから厳しさを増す経済状況で生き残る方策となるのではないのでしょうか。

木製サッシの良さは何かを問いつめていくと、おのずと答えがでてくるように思います。もちろん、燃える、腐るなどの欠点がありますが、それ以上に長所を強調してもよいように思います。その長所とはなにか。それは、暖かみ、親しみといった感覚的な嗜好と炭酸ガス固定能力に代表されるエコロジカルな材料としての木材の良さではないでしょうか。

昨年の「'97木製サッシフォーラム」では、後者のエコロジーや健康住宅に関連した講演を企画しました。今年の課題のひとつとして、それに関連して、自然エネルギーをいかに利用するか、またそれを利用するために果たしている窓の重要な機能についてと、これまであまり考えられていなかった窓の働きについて、荒谷 登氏（北海道大学名誉教授）に講演をしていただきました。

また、最近の窓関係のトピックスとして、菊地 伸一氏（林産試験場、性能部耐久性能科長）に建築基準法の改訂に伴う窓の防火基準について解説していただきました。建築基準法は、今年6月に仕様規定から性能規定に大きく改定されました。これによって、従来は、例えば木製サッシやドアなどのように、材質や寸法などが細かく規定されているため、排除されていたケースでも、これからは要求性能を満たしていれば使うことが可能となりました。これは、考えようによっては、木質建材には大変な朗報といえます。

講演後、お二人の講師の方と会場に見えられた方々を交えて意見交換会を実施しました。会場には、木製サッシメーカーの方々が多数見えており、活発な意見交換を頂きました。ここでうかがったいろいろな話を、今後木製サッシに限らず、木製品の新たな開発・普及に活用していただければ幸いです。

（林産試験場 石井 誠）